

## 大きな目的が幸せをつくる

先日、何気なくテレビを観ていたら、池上彰さんの番組でフェイスブックの創業経営者のマーク・ザッカーバーグさんが母校のアメリカ・ハーバード大学の卒業式で後輩に贈ったスピーチが紹介されていました。ザッカーバーグさんと言えば、1984年生まれの若干33歳にして世界の10本の指に入るそれも超が付く大富豪。裕福な家庭に育ち、名門大学に入ったのですが、大学時代にすでに起業し、仕事が忙しかったので卒業はしていないのだそうです。

さて、スピーチのテーマは「目的」。テレビで観て気になったので、早速にユーチューブの動画を観てみました。30分ほどの決して短いとは言えないスピーチですが、思わず聴き入ってしまいました。超エリートの大富豪が超エリートのたまごに語ることもなんか私たちには関係ないとそっぽを向く前に、ちょっと耳を傾けてみてください。

彼はこんな調子で話し出します。「本日は目的(purpose)について話したいと思います。でも、目的を見つけることについて、普通の卒業スピーチをするわけではありません。私たちはミレニアル世代です。それを本能的にやろうとするじゃないですか。だから代わりに、目的を見つけるだけでは十分ではないとお伝えします。誰もが目的意識を持つ世界を創造することが、私たちの世代の挑戦です。私の大好きな話があります。ケネディ大統領がNASA宇宙センターを訪問したとき、ほうきを持った清掃員の男性を見つけて訊ねました。『何をしているの?』男性はこう答えました。『大統領、私は人類を月に運ぶ手伝いをしています』と。目的とは、自分よりも大きいものの一部であるという感覚です。必要とされている、取り組むべきより良いものに携わっているという感覚です。目的こそが真の幸福をつくります。」

私にはこのNASAでのケネディ大統領の逸話が印象に残りました。アメリカでは、清掃員という仕事は大概、時給で最低賃金の職です。決して大きな金額を稼いでいるわけではないでしょう。普通であれば、他に仕方ないからこんな安い賃金でも我慢してやっているとがちではないでしょうか。それに対してこの男性は、そうではなく、自分の仕事に大きな意味を見出しています。それは目的を感じているからだということです。つまらないと思ってイヤイヤやっても仕事は仕事、大きな目的の一部を担っていると感じてやっても仕事は仕事、実際にやる作業自体は同じです。でも、その結果は大きく変わってくる。仕事の目的が感じられるか否かはその人の人生を大きく変えてしまう。働く目的はお金を稼ぐことで、これは間違いないこと。しかし、せつかく働くのなら、その時間が自分にとって意味のある時間にしなくてはと。

ザッカーバーグさんは言います。「目的こそが真の幸福をつくります」と。今日の売り上げや今月の資金繰りや今年の決算に四苦八苦する私たち中小企業の経営者ではありますが、お客様にまた地域の方々の役に立ちつつ、同時に、働いてくれている社員さんに、それぞれの日々の仕事の目標のさらに奥にある目的を実感してもらえるようにしなくてはと、今

更ながらに思った幸いです。

追申：

ザッカーバーグさんのスピーチはこちらから（和訳もあります）。

[https://www.buzzfeed.com/jp/sakimizoroki/cf-mzc?utm\\_term=.tgZ8NbRed#.blwod5XLQ](https://www.buzzfeed.com/jp/sakimizoroki/cf-mzc?utm_term=.tgZ8NbRed#.blwod5XLQ)

会頭 鈴木悌介